



Interop Tokyo 2022 ShowNet NOC チームメンバー

Tomine Takashi

**遠峰隆史**

国立研究開発法人情報通信研究機構  
サイバーセキュリティ研究所  
サイバーセキュリティ研究室 主任研究技術員



Watanabe Takayuki

**渡邊貴之**

ジュニアネットワークス株式会社  
エンタープライズ技術第一本部 部長

## Interop Tokyoが 放送業界に 最新IP技術を提案

ネットワーク技術の専門展示会「Interop Tokyo 2022」が6月15日(水)～17日(金)に幕張メッセで開催される(オンライン開催は6月20日(月)～7月1日(金))。今年のInteropの大きな特徴は、「放送のIP化」を主要テーマの一つにしたことだ。約80社のネットワークシステムベンダーや大学、研究機関などから合計約400名に上るネットワーク技術のエキスパートが参加し、今後3～10年に普及すると見込まれる最新ネットワーク技術を活用して約1,500の機器・サービスで構成する通信インフラを構築・運用し、Interopの展示会場の各社ブースや来場者が利用する通信サービスを実際に提供する毎年恒例のプロジェクト「ShowNet」では、放送局が導入できる最新のIPネットワークを見せる。また、今年新設した放送業界向け展示コーナー「Media over IP Pavilion」では、ShowNetと連携して放送業界にIP化ソリューションを提案する。Interopには「ネットワーク技術の観点から放送のIP化を提案する大規模展示会」という新たな顔が加わった。ShowNetの設計・構築・運営を担当する「ShowNet NOC チーム」の主要メンバーである情報通信研究機構の遠峰隆史氏とジュニアネットワークスの渡邊貴之氏に、今年のShowNetで挑戦する最新技術とそれを放送業界が導入する意味について聞いた。

(取材・構成：渡辺 元・本誌編集長)

### IP ネットワーク側からの 「放送のIP化」への視点

—— ネットワーク技術の専門展示会である Interop Tokyo が、「放送のIP化」のテーマに本格的に取り組み始めることは、放送業界にとって大きな意義がある。

**遠峰** 放送業界では、放送局内などの映像伝送ネットワークを従来のバス型ネットワークからIPベースに置き換えようとしている。IPネットワークを使うからには、バス型を伸ばして2拠点間をOver IPでつなぐだけでなく、最新のネットワーク技術を駆使して多拠点間を接続したり、より広帯域化するなど、多様な使い方ができる。放送のIP化の規格として SMPTE ST 2110 などがあるが、それは基本的には閉域網での運用・利用という考え方だ。映像制作の自由度も向上できる。他の放送業界向け展示会では、放送業界の規格からIPネットワークの活用を考える視点だが、InteropはインターネットにつながるIPネットワーク側からの視点で映像のIPネットワーク活用を考えている。ある地上波放送局の方もおっしゃっていたが、放送業界でのIP利用では、IPマルチキャストという、ネットワーク技術的には最近あまり使われていない枯れた技術もベースになっている。Interopでは最新技術だけ